

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	4学年（選択）
使用教科書	MOUSA① 音楽Ⅰ（教育芸術社）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。</p> <p>②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。</p> <p>③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～</p> <p>①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。</p> <p>②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。</p> <p>③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。</p> <p>④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。</p>

2 学習目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や、音楽、音楽文化に幅広く関わることでできる資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>① 曲想と音楽の構造や、文化的・歴史的背景との関わり及び音楽の多様性を理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能・知識を身につけるようにする。</p> <p>② 自己のイメージを持って表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらそのよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>③ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①生涯にわたり、音楽をより身近なものとして感じられるように、音符や用語・記号の知識を知り、歌や楽器にふれて豊かな音楽体験ができることを目指す。</p> <p>②音楽のよさや美しさを味わい、他者ともそれらの気持ちを共有できるような態度を育てる。</p> <p>③歌唱や楽器の演奏を通して、よりよく困難や問題を解決できる創意工夫ができることを目指す。</p> <p>④合唱や合奏を通して、他者や全体のことを考えながら協働できる姿勢を育てる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり合いを理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能・知識を身につけようとしている。</p>	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、自己のイメージを持った音楽表現を創意工夫しようとしている。自ら音楽を評価しながら、そのよさや美しさを味わって聴くようになっている。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する姿勢や、音楽によって生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養おうとしている。</p>

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・筆記テスト ・鑑賞文 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の様子とテスト ・筆記テスト ・鑑賞文 ・学習プリント 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の様子 ・学習プリント ・授業の取組み方、様子 ・授業の出欠状況

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	歌唱をしよう①	A 表現	校歌 「翼をください」「花」	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の心情を理解しながら、曲想と音楽の構造との関わり合いを理解する。 ・体の使い方を学びふさわしい発声を身につける。 	7	実技 取組み方
5	ボディ・パーカッションを楽しもう	A 表現 [共通]	「プリマス・ロック」	<ul style="list-style-type: none"> ・パートに分かれてアンサンブルをする。 ・グループに分かれて、調和を意識し、音色や強弱の工夫を話し合いながら演奏する。 ・音楽記号や音符休符の学習をする。 	6	実技 取組み方
6	鍵盤楽器を弾いてみよう	A 表現	「残酷な天使のテーゼ」	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の背景をふまえ、音楽の構造と曲想を理解する。自己のイメージを持って、音色を選んで演奏する。 ・調和を意識しながら他者と合奏する。 	7	実技 学習プリント 取組み方
7	音楽の要素とイメージをつなげよう	B 鑑賞 [共通]	「動物の謝肉祭」	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家や作曲された歴史的背景について理解する。 ・音楽を聴いて構成する各要素について知覚感受し、そのイメージを言葉や文章で表す。 ・そのイメージをグループ内で発表し合い、音楽の各要素と曲想の関わり合いを話し合う。 	3	学習プリント
	ギターを弾いてみよう①	A 表現	「キラキラ星」「ぶんぶんぶん」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の仕組みや発音原理を理解し、体の使い方を身につけながら、単旋律を演奏する。 	5	実技 取組み方
9	合唱をしよう①	A 表現 [共通]	「いのちの歌」 混声合唱曲	<ul style="list-style-type: none"> ・多声の重なりを感じ、美しいハーモニーを味わうようにする。 ・歌詞の心情を理解しながら、曲想と音楽の構造との関わり合いを理解する。 ・ふさわしい発声を意識しながら、同一パートや他パートと調和を大事にして合唱する。 	6	実技 取組み方

10	合唱をしよう② オーケストラの 仕組みを知ろう	A 表現 [共通]	混声合唱曲	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の心情を理解しながら、曲想と音楽の構造との関わり合いを理解する。 ・ふさわしい発声を意識しながら、同一パートや他パートと調和を大事にして、人前で発表できるように合唱する。 	3	実技 取り組み方 学習プリント
		B 鑑賞 [共通]	「青少年のための管弦楽入門」 「マエストロ！」	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家、楽曲について理解する。オーケストラの編成や楽器の名前、形状を理解する。 ・音楽を聴いて、各楽器の音色を感受し、その印象を言葉で表す。 ・オーケストラを題材にした映画を鑑賞し、その実態を知る。 	5	
11	歌唱をしよう②	A 表現	「群青」	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の心情を理解しながら、曲想と音楽の構造との関わり合いを理解する。 ・体の使い方を学びふさわしい発声を身につける。 	7	実技 取り組み方
12	ハンドベルでアンサンブルをしよう	A 表現 [共通]	「The First Noel (牧人ひつじを)」 「荒野の果てに」	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の雰囲気を感じ、主旋律と他声部を含めた合奏をする。主にリズム、テクスチャを知覚し、他者と合わせられるように工夫する。 ・英語の音名の言い方を学習する。 	7	実技 取り組み方
1	外国の歌曲を歌おう	A 表現	「Caro Mio Ben」	<ul style="list-style-type: none"> ・原語の語感を生かし、曲にふさわしい発声で歌うようにする。 ・歌詞の心情を理解しながら、曲想と音楽の構造との関わり合いを理解する。 	6	実技 取り組み方
2	ギターを弾いてみよう②	A 表現	「森のくまさん」 「日曜日の使者」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の仕組みや発音原理を理解し、体の使い方を身につけながら、コード演奏や弾き歌いをする。 	7	実技 取り組み方
3	ソルフェージュを学ぼう	[共通]	リズム課題、 聴音、視唱、 楽典	<ul style="list-style-type: none"> ・音符休符を読む練習、リズムを真似る練習、旋律の視唱、簡単な聴音などで、音楽の基礎的な能力を高める。 	4	実技 学習プリント 筆記テスト

計 73 時間 (48 分授業)

6 課題・提出物等

歌唱・楽器の実技、学習プリント、筆記テスト、鑑賞文 など

7 担当者からの一言

普段何気なく聴いている音楽。人々の日常に深く根付いているこの音楽文化について、意識を働かせ、様々な学習活動を通して音楽に関わる感性や技能を磨いていきます。楽器や楽譜は、大切に扱きましょう。
(担当：樋口健太郎)